

株主通信 vol.34

RYOWA REPORT

第68期 業績のご報告

平成28年4月1日～平成29年3月31日

ごあいさつ・トップインタビュー ①

施工実績 ④

テクノ菱和の技術の紹介 ⑤

連結財務情報 ⑦

会社概要／株式の状況 ⑨

空
気
と
水
の
テ
ク
ノ
ロ
ジ
ー

空気と水のテクノロジー

株式
会社 **テクノ菱和**

証券コード 1965

株主のみなさまには、平素より格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、テクノ菱和グループは、このたび第68期（平成28年4月1日から平成29年3月31日）の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

株式会社テクノ菱和
代表取締役社長執行役員

黒田 英彦
Hidehiko Kuroda



経営理念

「空気と水のテクノロジー」を通じて
環境にやさしい生活空間の創造を目指す。

環境エンジニアリングを中核事業とし、
ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す。

人材の育成・教育を重視し
働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する。

行動規範三訓

逞しい心身の鍛錬

意志疎通の徹底

技術力の研鑽

トップインタビュー

Q 当期の建設業界を取り巻く環境は
いかがでしたか？

A 当期の国内経済は、雇用・所得環境の改善を背景として個人消費の底堅さが見られ、円高傾向の是正や在庫調整の進展により企業収益の改善が進んだことから、緩やかな回復基調で推移したものの、米国のトランプ新政権の政策運営や英国のEU離脱問題など政治・経済面での先行き不透明感拭えない状況が続きました。

建設業界におきましては、企業収益の改善を受けて、既存設備の維持・更新需要が底堅く推移しており、補正予算による公共投資の持ち直しも見られることから、堅調な受注環境が続きました。

Q 当期の業績はいかがでしたか？

A 当期は、中期3か年事業計画の2年目として目標達成に向けた施策を展開してまいりました。具体的には国内では、設備改善工事の需要を取り込むため、引き続きライフサイクル一貫ソリューションビジネスを推進するとともに、医薬関連分野を中心とした産業設備への提案営業の強化を図ることで受注量の確保に努めてまいりました。また、海外事業では、インドネシア共和国に現地法人を設立し現地での受注拡大を目指すとともに、ミャンマーにおいても進出後初の受注を果たすなど東南アジア地域での事業基盤強化を図ってまいりました。

その結果、当社グループの連結業績は、受注高59,661百万円、売上高62,234百万円、営業利益4,421百万円、経常利益4,508百万円、当期純利益3,100百万円となり、前期に比べ、増収増益を確保することができました。これは、期初に掲げた「自分の1年間の足跡を残そう」というスローガンを全役職員が共有し、業務に精励した成果であると考えております。

	当期（百万円）	前期（百万円）
受 注 高	59,661	64,547
売 上 高	62,234	58,032
営 業 利 益	4,421	3,440
経 常 利 益	4,508	3,669
当 期 純 利 益	3,100	2,265

（注）本報告書において、当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指します。

Q 来期の方針を教えてください。

A 基本的に当期の方針を継続し、医薬関連分野を中心とした産業設備の受注に向けた取り組みの強化とライフサイクル一貫ソリューションビジネスの推進、海外事業の強化などを重点施策といたしました。また、監査等委員会設置会社への移行によるコーポレートガバナンスの強化を図るとともに執行役員制度を導入し、経営の意思決定を迅速化することで、更なる企業価値の向上を図ってまいります。

来期は中期3か年事業計画の締めくくりの年であると同時に、節目の年となる第70期へ向けての助走期間でもあります。企業は業歴を重ね規模が大きくなることで、未知の領域へチャレンジすることに慎重になります。そこで、お客様の要望に挑戦し続け当社の礎を築いた先達のパイオニア精神を思い起こし、次世代に引き継ぐことができるよう「創業時の原点に還ろう」というスローガンを掲げました。

Q 来期の業績見通しを教えてください。

A 景気回復による物価上昇に伴い実質所得の低下が個人消費を下押しすることが懸念されるものの、全体としては緩やかな回復基調が続くことが予想されます。

建設業界におきましては、企業収益の改善を背景として設備投資が堅調に推移されることが予想される

ものの、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたインフラ整備の本格化に伴い、今後は徐々に人手不足によるコスト上昇圧力が増してくることが懸念されます。

このような状況のなか当社グループといたしましては、お客様の要望に寄り添った提案営業を推進するとともに、ライフサイクルー貫ソリューションビジネスを実践することで、更なる受注拡大を目指してまいります。

来期の連結業績見通しにつきましては、受注高59,800百万円、売上高62,000百万円、営業利益2,700百万円、経常利益2,850百万円、当期純利益1,850百万円を見込んでおります。

	来期予想 (百万円)
受 注 高	59,800
売 上 高	62,000
営 業 利 益	2,700
経 常 利 益	2,850
当 期 純 利 益	1,850

株主のみなさまへの
メッセージをお願いします。

当社といたしましては、今後も医薬関連を軸とする産業設備分野での専門技術の蓄積に取り組み、当分野での優位性を確保するとともに、企業競争力の強化のため、社員教育に積極的な投資と支援を行いバランスのとれた信頼される人材を育成し、景気に左右されない安定した経営基盤の確保に努めてまいります。

当期の期末配当金につきましては、業績ならびに今後の事業展開等を勘案いたしました結果、1株につき11円とし、年間では前期より3円増配となる1株につき20円とさせていただきます。

当社グループのよりの発展に向けて、全力で取り組んでいく所存でございますので、株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS 監査等委員会設置会社への移行および執行役員制度の導入について

当社は、取締役会の監督機能の強化によるコーポレート・ガバナンスの一層の充実を図るため、本年6月28日付けで監査等委員会設置会社に移行いたしました。また同日付けで執行役員制度を導入し、執行役員への権限委譲により経営の意思決定の迅速化を図ることで、今後も更なる企業価値の向上に努めてまいります。なお、制度導入後の取締役・執行役員体制につきましては9ページをご覧ください。

沢井製薬株式会社三田西工場



概要	
竣工年月	2016年9月
施 工 地	兵庫県三田市
建物用途	医療用医薬品包装工場
延床面積	17,517.00㎡
物件形態	地上4階
工事範囲	空調・衛生設備工事

本物件は、同社が製造するジェネリック医薬品の生産能力の増強のために、既存工場の近接地に建設された工場棟・品質管理棟・物流棟が一体となった包装専用工場です。
クリーンルーム施設には故障や点検時に空調機を止めずに作業ができる工夫がなされており、メンテナンス性の向上を図っております。
また、当社開発の中央監視システム(TECBEAMS®)を導入し、主要機器の細やかな制御を実現しております。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター新館棟



概要	
竣工年月	2017年1月
施 工 地	埼玉県熊谷市
建物用途	病院
延床面積	14,312.83㎡
物件形態	地上4階
工事範囲	空調・衛生設備工事

東北大学青葉山新キャンパス 青葉山コモンズ



概要	
竣工年月	2016年6月
施 工 地	宮城県仙台市
建物用途	大学
延床面積	9,955.08㎡
物件形態	地上2階
工事範囲	空調・衛生設備工事

本物件は、同大学青葉山新キャンパスのキャンパスモールに面した図書館、講義室、食堂・厨房を併設した学習と交流の拠点であります。
図書館エリアとメディアラウンジは、床輻射空調を採用することでドラフト感の無い空間となり、快適性と省エネ性を兼ねそろえた施設となっております。



本物件は、埼玉県の地域医療支援病院であり、県内に4か所設置された疾患別医療センターのひとつとなります。既存施設の老朽化に伴い、医療の高度化に対応するため、整備が進められました。
空調方式はGHPによる個別空調、パッケージユニット方式でVAV方式を採用し、埼玉県環境配慮方針に準拠した省エネ施設となっております。

テクノ菱和の技術の紹介

Vol. 12

「環境のトータルエンジニアリング」企業である
私たちテクノ菱和の技術をみなさまにご紹介いたします。

計装技術

当社は、設計、施工、メンテナンスから運用、コンサルティングまで最適なサービスを
ワンストップで提供する「ライフサイクル一貫ソリューションビジネス」を展開しております。
今回はそのなかでも重要なキーワードとなる「計装技術」についてご紹介いたします。

計装技術とは？

- ✓ JIS規格では「計装」を『計測装置、制御装置を装備すること』と表しています。
- ✓ 建設業法では「計装工事」という種別はなく、管工事や電気工事等に付随する技術です。
- ✓ 一般的には「自動制御技術」といったほうがイメージし易いかもしれません。
- ✓ 高度な空調・省エネシステムは、空調技術と計装技術が融合してはじめて真価を発揮します。
- ✓ 当社はこの技術を空調設備のみならず、製品製造プロセスの制御・監視まで幅広い用途に活用することで、お客様の省エネ活動を支援しております。

当社の取り組み

計装技術を応用したエネルギーの「見える化」システムはライフサイクル一貫ソリューションビジネスを展開する上で欠かせないアイテムとなります。当社は計装技術部を中心に関連技術の研究開発を行っており、現在ではクラウド上で収集したデータを「見える化」するだけでなく、運用支援をご提案するサービスを展開しています。今後はAIを活用した熱源管理や室内環境制御技術など、更なる省エネ運用をご提案できる研究開発に取り組んでまいります。



当社の計装技術を用いた医薬品製造工場向け中央監視システムを紹介いたします。



医薬品は製造過程やその要件を厳格に定めた「医薬品GMP」を満たした設備で製造されることが求められます。当社は長年培ってきた計装・制御技術やデータの計測・活用技術を応用し、医薬品GMPに準拠したCSV※対応中央監視システムである「TEC BEAMS+P」を展開しております。

製品の特長

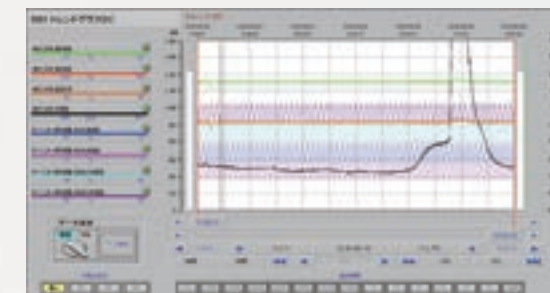
◆ 環境モニタリング機能と中央監視機能を一元化

従来個別のシステムであった環境モニタリング機能と中央監視機能を融合することで、最適な環境管理と設備運用を低コストで実現できます。

◆ ニーズに合わせたCSVドキュメントを提供

CSVドキュメントを標準パッケージ化しております。カスタマイズも可能ですので、お客様のニーズに合わせたドキュメントを提供することができます。

※ CSVとは「Computerized System Validation（コンピュータ化システムバリデーション）」の略です。医薬品の開発から製造において使用されるコンピュータ化システムが、正しく開発され導入され運用されることを確実に確認して証拠を残しておくことで、製造された医薬品の品質および品質保証に問題が無いことを保証することです。



受注高	売上高	経常利益	当期純利益
59,661 百万円 ＜前期比 7.6%減＞	62,234 百万円 ＜前期比 7.2%増＞	4,508 百万円 ＜前期比 22.9%増＞	3,100 百万円 ＜前期比 36.9%増＞

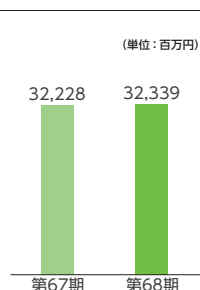
受注高構成比

(総受注高に対する割合を示しています。)

産業設備工事

54.2% 32,339百万円

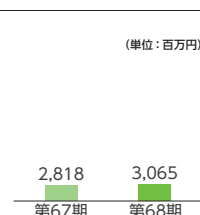
当期は、緩やかな景気回復基調を背景に、製造業の設備更新需要が底堅く推移したことから、医薬品関連施設を中心に前期を上回る受注量を確保できました。今後も医薬関連分野を中心とした産業設備の受注シェアを更に伸ばすとともに、ライフサイクル一貫ソリューションビジネス体制によりお客様との関係強化を推進してまいります。



電気設備工事

5.1% 3,065百万円

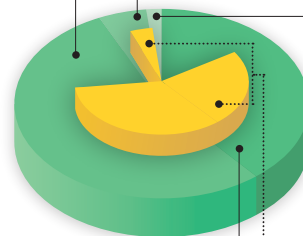
連結子会社の松浦電機システム株式会社が発電設備、太陽光発電やLED照明などの省エネルギー技術の提案・施工・メンテナンスを実施しております。



冷熱機器販売

1.6% 928百万円

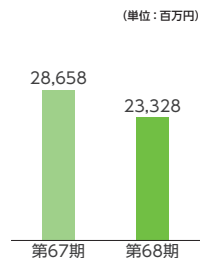
設備工事に関する空調機器等の販売を行っております。



一般ビル設備工事

39.1% 23,328百万円

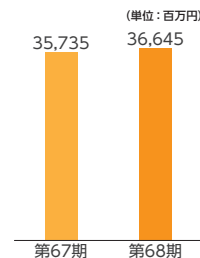
当期は、前年に大型案件の受注があった反動から、前年比では受注量は減少いたしました。今後は継続的に設備の更新需要を取り込み、学校や病院等のインフラ需要にも対応し、受注量の確保に努めてまいります。



設備改善工事

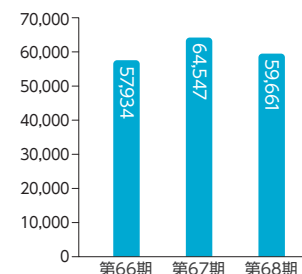
61.4% 36,645百万円

施設のロングライフ化に貢献するメンテナンス工事と経年劣化した設備の機能回復や、より効率的なシステムへの見直しを図るリニューアル工事を中心とした事業分野です。



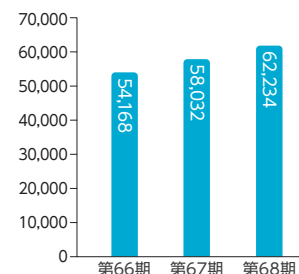
受注高の推移

(単位：百万円)



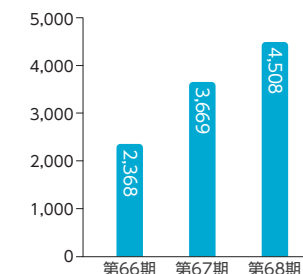
売上高の推移

(単位：百万円)



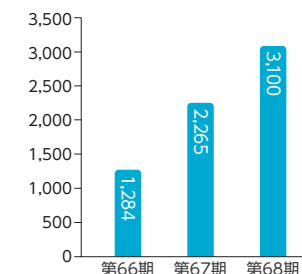
経常利益の推移

(単位：百万円)



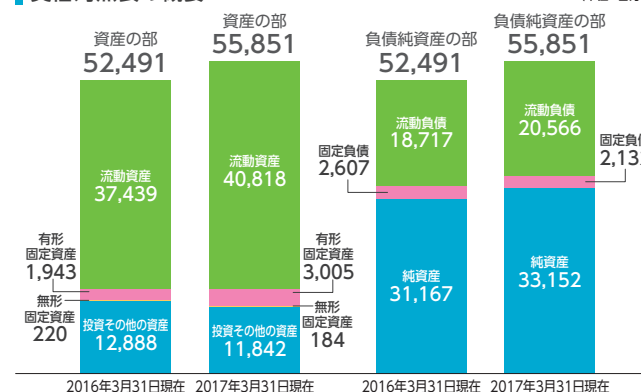
当期純利益の推移

(単位：百万円)



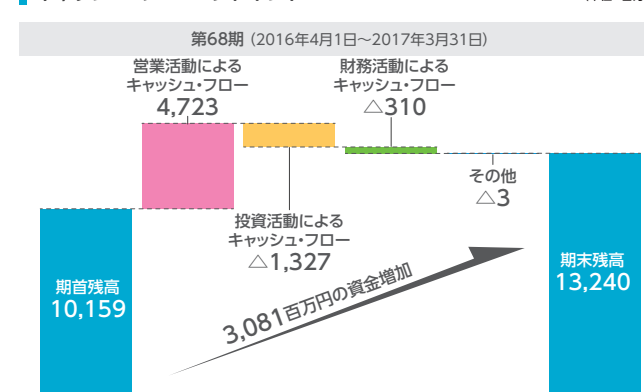
貸借対照表の概要

(単位：百万円)



キャッシュ・フローのポイント

(単位：百万円)



財務のポイント

資産の部

流動資産における現金及び預金の増加30億円、固定資産における土地の増加10億円を主な変動要因として、資産合計は前期末と比較して33億円増加し、558億円となりました。

負債の部

流動負債における電子記録債務の増加60億円、支払手形・工事未払金等の減少41億円を主な変動要因として、負債合計は前期末と比較して13億円増加し、226億円となりました。

純資産の部

利益剰余金の増加26億円、その他有価証券評価差額金の減少9億円を主な変動要因として、純資産合計は19億円増加し331億円となり、自己資本比率は前期末と比較して0.1ポイント低下し、59.3%となりました。

キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益の計上による資金増加44億円、有形固定資産の取得による資金減少12億円を主な変動要因として、現金及び現金同等物は、前期末と比較して30億円増加し、132億円となりました。

詳しい情報はウェブサイトへ



テクノ菱和 検索

会社概要（平成29年3月31日現在）

商号	株式会社テクノ菱和 (英文表記 TECHNO RYOWA LTD.)
設立	昭和24年12月23日
資本金	2,746,800,000円
上場	東京証券取引所市場第二部
従業員	652名（連結760名）
本社	東京都豊島区南大塚2丁目26番20号
登記上の所在地	東京都港区芝大門2丁目12番8号

事業内容 当社グループは、産業用空調、冷暖房、給排水、衛生、電気設備等の設計・施工管理といった設備工事業ならびにそれらに付帯する業務を行っております。お客様のビジョンの実現に向けた計画提案、設計、施工、設備診断、アフターメンテナンスといったワンストップサービスを通じて、お客様を総合的にサポートしてまいります。

- 産業設備関連事業

■ 一般ビル設備関連事業

■ 電気設備工事業

■ 冷熱機器販売事業
- 太陽光発電事業

■ 不動産賃貸事業

■ 保険代理事業

主な事業所

技術開発研究所(東京都世田谷区)	名古屋支店(愛知県名古屋市)
東京本店(東京都豊島区)	静岡支店(静岡県静岡市)
千葉支店(千葉県千葉市)	大阪支店(大阪府大阪市)
茨城支店(茨城県土浦市)	中国支店(岡山県倉敷市)
北関東支店(埼玉県さいたま市)	九州支店(福岡県福岡市)
東北支店(宮城県仙台市)	海外事業部(東京都豊島区)
横浜支店(神奈川県横浜市)	

役員（平成29年6月28日現在）

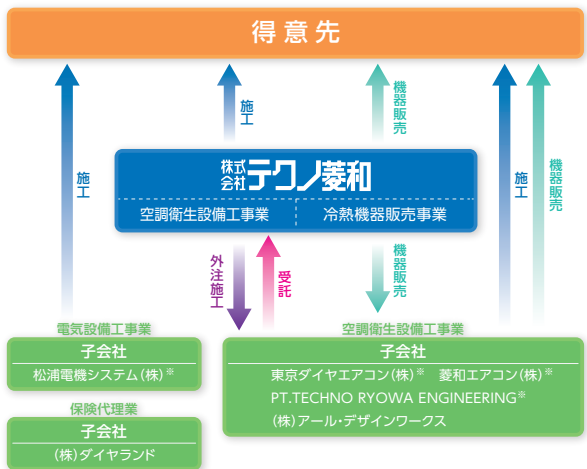
取締役			
代表取締役	黒田	英彦	
取締役	飯田	亮輔	
取締役	知見	扶公	
取締役	鈴木	孝	
取締役	根岸	孝雄	
取締役(社外)	楠本	馨	
取締役常勤監査等委員	雑賀	純二	
取締役監査等委員(社外)	小栗	章雄	
取締役監査等委員(社外)	本間	正広	

執行役員

社長執行役員	黒田	英彦	
専務執行役員	飯田	亮輔	
専務執行役員	知見	扶公	
常務執行役員	鈴木	孝	
常務執行役員	星野	宏一	
上席執行役員	松橋	秀明	
上席執行役員	根岸	孝雄	
上席執行役員	黒田	長憲	
上席執行役員	窪	和敏	
上席執行役員	加藤	雅也	
上席執行役員	富士	富三	
執行役員	大石	勉	
執行役員	永崎	公幹	
執行役員	鈴木	俊夫	
執行役員	袴田	一博	
執行役員	齋藤	吉信	

企業集団の状況 ※連結子会社

東京ダイアエアコン株式会社※	PT.TECHNO RYOWA ENGINEERING※
所在地 東京都新宿区	所在地 インドネシア共和国
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
菱和エアコン株式会社※	株式会社アール・デザインワークス
所在地 愛知県名古屋市	所在地 大阪府大阪市
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
松浦電機システム株式会社※	株式会社ダイヤモンド
所在地 大阪府守口市	所在地 東京都港区
主要な事業の内容 電気設備工事業	主要な事業の内容 保険代理業



株主優待制度のお知らせ

当社株式を決算期末日に100株以上ご所有の株主様に静岡の新茶をプレゼントいたします。

ご優待内容

ご所有株式数1,000株以上	静岡の新茶2パック贈呈
ご所有株式数100株以上1,000株未満	静岡の新茶1パック贈呈

ご優待品「特選茶」

Corporate Information / Stock Information

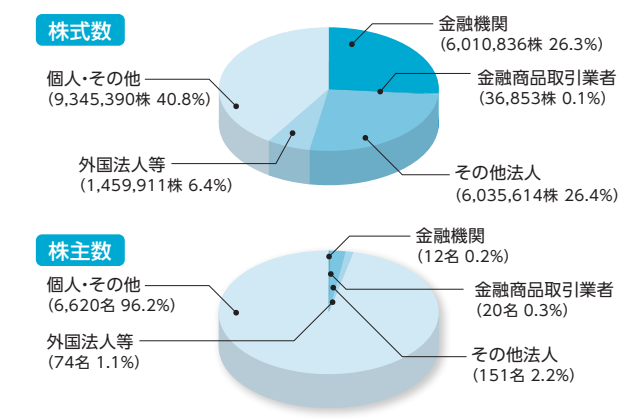
株式の状況

発行済株式の総数	22,888,604株
当期末現在の株主総数	6,877名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
テクノ菱和取引先持株会	2,207	9.6
三菱重工サーマルシステムズ株式会社	1,424	6.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,131	4.9
株式会社みずほ銀行	1,131	4.9
東京海上日動火災保険株式会社	906	3.9
株式会社名古屋銀行	738	3.2
明治安田生命保険相互会社	734	3.2
株式会社京葉銀行	723	3.1
近重 次郎	672	2.9
テクノ菱和従業員持株会	670	2.9

株式の分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
単 元 株 式 数	100株
公 告 掲 載 U R L	http://www.techno-ryowa.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
諸 手 続 き お 問 い 合 わ せ 先	【住所変更、買取請求その他各種手続きについて】 ●証券会社をご利用の株主様 お取引の証券会社等にお問い合わせ下さい。 ●特別口座に記録された株式をご所有の株主様 特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせ下さい。 【未受領の配当金について】 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

特別口座をご使用の株主様へ お早めに株式をお振替え下さい

特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買を行うことができません（単元未満株式は除く）。また、特別口座で管理されている株式は相続や贈与時のお手続きが煩雑になってしまいます。
ご所有の株式が特別口座に記録されている場合は、証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式をお早めにお振替え下さい。
詳しいお手続きにつきましては三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ下さい。

お手続き	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL:0120-232-711（通話料無料）

株式会社 **テクノ菱和**

<http://www.techno-ryowa.co.jp/>

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号
お問い合わせ TEL : 03-5978-2541



環境に優しい植物油インキ
を使用して印刷しています。

